



KUMAMOTO MIRAI PARK

デロイト トーマツ グループ主催／熊本半導体ビジネス室開所記念イベント

熊本に新たな拠点開設 イノベーション創出促す

デロイト・トーマツグループ
熊本半導体ビジネス室 室長
貴志 隆博



「熊本半導体ビジネス室はこのオフィスに加わり地域の持続的な発展を支える。半導体企業の集積が進む熊本県では今後、人材育成やDXによる業務推進、イノベーション支援に加え、国内外からの企業進出に対するニーズも高まる。熊本半導体ビジネス室は、地域のさまざまなステークホルダーとデロイトのグローバルネットワークを結ぶ拠点として助言や実行支援を行う。

今年3月、熊本市内に「熊本半導体ビジネス室」を開所したデロイト・トーマツグループは開所記念イベントとして5月18日、「KUMAMOTO MIRAI PARK」を熊本駅前・アミューズプラザくまもとで開催。ソフトバンクと三菱電機の企業2社に加え、熊本大学の学生サークル2団体もブース出展し、多くの家族連れなどで賑わった。

熊本では1997年からデロイト・トーマツグループの有限責任監査法人トーマツが企業の会計監査を提供しており、今回開設された

地域と共に、未来に向かって

参加団体座談会

課題解決のレシピ全国へ（磯さん） 自然と共存する九州に（山田さん）



ソフトバンク
磯 浩隆さん



三菱電機
山田順治さん



熊本大学「KuMA」
西 陽平さん



熊本大学「Soleil」
山川 遼空さん

イベント終了後には貴志室長を司会に出展者との座談会が行われた。出展企業のソフトバンクは、昨年12月に熊本でデジタル分野のビジネスに取り組むための新たな組織を設置し、すでに60以上の事業者や自治体とコミュニケーションを構築しており、今回のイベントには地域への理解をより深めたいと参加した。ブースにはChat（チャット）GPTを組み込んだ大型ロボット「Pepper」や医療Maas仕様のマルチタスク車両などを展示。一般の来場者にわかりやすい形で未来の技術を紹介した。座談会に参加した磯浩隆さんは「ソフトバンクの社は東京だが、ロカルの地域の課題も吸い上げてサービスを構築していきたい。半導体の製造が本格化すれば人的リソースの不足などリスクも出てくる。課題解決のレシピを熊本で作れば、成功事例として今後日本各地で行われる街づくりにも共有していきたいと語った。

三菱電機は九州で最初に半導体を生み出したパワーデバイス製作所を熊本県に立地している。今回のイ



三菱電機はEV モーターが回る仕組みを模型で説明

学生が企業との橋渡しに（西さん） 交流の場が共感を生む（山川さん）

座談会の後半ではこれからの熊本のありたい姿について話し合った。ソフトバンクの磯さんは「三菱電機さんのように熊本には古くから半導体産業が根付き、企業の理解は進んでいる。その一方で、個人レベルでは土地の値段が上がったとか、家が高く売れたとか短い時間軸で物事を考えている人が多いように感じる。経済効果だけでなく将来の子供たちがどんな街に暮らすのか、自然と共存している今の熊本の豊かさを保ちながら成長できるのか、一人が考えておくべきと問題提起し、そのためには「行政の動きをウォッチする必要もある」と話した。

三菱電機の山田さんは80年代から衰退してしまっただけの日本の半導体産業の中で、現在でも世界シェアの2割を占める「勝ち残った」パワー半導体の優位性を語った。さらにエネルギーを中心とした九州全体の振興を提言。「海外からエネルギーを買う続けるのではなく国内で自然を守りながら生み出していく必要がある」とし、「洋上風力発電や洋上太陽光発電はソリューションのひとつ。浮体式の発電装置の製造には九州に根付いている造船技術が役立つ。関連産業を育てていけば将来的に九州のエネルギーはすべて

を設置して実際に操作しながらの解説は小学生から高齢者まで大好評。ブースで子供たちに笑顔で説明をしていた山田順治さんは、熊本の半導体産業の状況について「半導体は産業のコメと言われるが、本物の米と同じように作るにはエネルギーと水が必要とする。半導体製造が急拡大するとこれまで地域が大事にしてきた事がおさなりにならない心配だ。日本のエネルギーは多くを海外からの輸入に頼っているが、パワー半導体を使えばエネルギーをより効率よく運用することが出来る。三菱電機はこの地で昔からやってきたことをこれからもやっていく。豊かな自然と共存する九州を作っていきたい」と話した。

イベントには熊本大学から二つの（学生サークルも参加した。盲学校向けの教材づくりに取り組む「Soleil」（ソレイユ）は「ふれあいどうぶつひろぎ」や「タツマツ」世界地図など触って遊べる教材の作成体験ワークショップを実施した。座談会に参加した山川遼空さんは「自分たちの展示は直接半導体には関係ないが、教育から未来を考える活動をしているのでこのイベントに参加した。小さな子供の参加者も多く、今後社会を支えていく層



ChatGPTを搭載したソフトバンクロボティクスのペッパーは大人気



熊本大学「Soleil」は盲学校教材のワークショップを実施

が工学に関わる際の仲介役になれる。そのためにもこうした交流の場は絶対に必要だ。構想段階でもいいので「こんな活動をした」と企業から発信してもらえると共感が生まれるのでは」と提案した。

司会を務めた貴志室長は「熊本半導体ビジネス室と名付けたが、半導体産業だけが成長していくという事はあり得ない。製造を支える人や、若い人への教育、人が住む環境や子育てのしやすさなど様々な事象がロジカルにもエモーショナルにも関連してくる。ビジネス面だけでなくまちづくりや環境問題など大きなスケールで地域の皆さんの思いをしっかりとくみ取れるような進め方が必要だ。これからこの地で起こる事は大切な社会の知見でありアセットになる。それを日本全体、世界全体がよくなる方向に広げていくような活動したいと締めくくった。